

アクションプランで地域と歩む商店街

(石山商店街振興組合)

訪問日：平成 28 年 2 月 22 日

担当 AD:川崎ますみ

商店街アクションプラン策定へのチャレンジ



石山商店街は、JR 石山駅、京阪石山駅から徒歩 5 分ほど、瀬田川沿いの旧東海道筋に位置し、約 650m の間に飲食や物販、医療サービスなど 214 店舗が並ぶ歴史ある商店街です。JR 石山駅から京都駅までは約 14 分、大阪駅でも約 45 分という好立地ゆえに京都、大阪のベッドタウンとしても人気が高く、商店街近隣にもマンションなどが増え商圏人口は増加しています。昭和 40～

50 年代は東レ、NEC などの「企業城下町」の商店街として活気にあふれていましたが、消費者ニーズの変化や大型店の出店などを受け、商店街を取り囲む環境は次第に厳しさを増してきました。また、駅隣接という立地条件から交通量が多く道路が渋滞しがちであり、かつ道路には歩行者空間が未整備な箇所があるなど、お客様が安全に楽しく買い回りできる環境整備が強く求められてきました。

このような状況の下、衰退の危機感をつのらせた石山商店街は、平成 19 年、商店街 PR のための事業を企画し、地元大津市に補助金を申請しました。すると、大津市の担当者から、「1 年限りの事業だけではなく、商店街が継続的に発展していくためのアクションプランもあわせて策定して下さい。」との提案を受けたのです。そこで石山商店街は、平成 19 年度、「石山商店街アクションプラン策定事業」を大津市の支援を受けて実施。『5 年後、10 年後に商店街が目指すべき方向を決定し、それを実行するためのプランを作成する』という、非常に重要で、それゆえに難しいチャレンジでしたが、商店街メンバーは学識経験者の知見を取り入れながら議論を重ねていきました。

地域をまきこみプランを実行。商店街執行部の企画力と行動力

アクションプラン策定に向けて会議を重ねるうち、次第に商店街メンバーからは前向きな発言が増えていき、商店街のビジョンがはっきりとしていきました。

その結果、石山商店街の目指す方向を「地域と歩む“暮らしのひろば”石山商店街」と定めます。高齢者や子どもなど弱者にやさしい商店街、地域の人々から頼りにされるような、地域に身近な商店街を目指し、今後10年間に取り組むべき事業をまとめました。商店街がやるべきことが明確となったこの時、石山商店街の進撃が始まります。

商店街執行部は、やるべきことを行うために、必要とあらば大学に直談判する行動力をもって協力者の輪を広げ、学生や地域の小学校、自治会、市職員、企業、NPO法人等々を巻き込んで、様々なプランを企画し実行していきました。例えば平成20年に実施した「石山まちのえきコンペティション」事業では、商店街の空き店舗を、商店街と地域住民との接点となる「まちのえき」として活用するための改装案を全国の学生から募集し、学識経験者による審査を行い優秀作品を選考、表彰しました。この時に最優秀賞を得たプランは、後に石山商店街がコミュニティスペース「石山らんらんサロン」を開設する際に活用されることとなるのです。

更に平成22年、石山商店街は、アクションプランで計画した種々の活性化プラン実現に向けて、国の支援策を活用することにしました。石山商店街の活性化計画について国からの認定を受け、22～25年度の4年間にて、コミュニティスペース「石山らんらんサロン」開設や、石山とれ取れ祭などのイベント事業、空き缶回収機の設置などを行い、アクションプランに定めた事業を次々に実現化していきました。



プランの実行がもたらした地域とのつながり



このように、アクションプランに基づいて様々な事業を実施した結果、石山商店街の通行量は毎年増加。活気のある石山商店街へ出店を希望する店主は多く、空き店舗が出てはすぐに埋まる状態となりました。

さらに、プランに基づいて事業を積み重ねた結果、今までは来街していなかった地域住民も商店街へのなじみが

でき、新たな顧客層として定着しつつあります。例えば子育て世代については、一般的には商店街とのつながりは薄く大型店に足を運びがちですが、石山商店街ではアクションプラン「地域に貢献できる商店街」に基づき、『小中学生に体験学習の場と機会を提供』する中で、自然とその親世代とも商店街とのつながりが生まれる活動を続けています。

例えば平成 26 年 11 月、商店街での実施は全国初となる子どもの職業体験イベント「子どもミュージアム商店街」事業を実施した際、子どもと一緒に参加した親などは、子どもと一緒に商店主から直に商品の説明を受けたり、普段入れないお店の裏側を見せてもらったりする中で、商店主の豊富な知識や深い思い入れ、魅力的な人柄にふれてファンになり、商店街に来てくれるようになった方もおられるそうです。

また、主に小学生を対象に開校した「石山寺子屋塾」事業では、商店街メンバーである KEC 教育グループと連携し、商店街コミュニティスペースの「石山らんらんサロン」にて算数・国語を中心とした学習指導のほか、農業体験、その収穫物を商店街で販売する商業体験、化学実験など、様々な体験学習を通じて生きる力を培う指導を行っています。ここに集まる子供たちの親もまた、商店街と様々な形でかかわり、商店街とのつながりを深めていきます。

このように、アクションプランの実行を重ねた結果、来街者層は子育て層から高齢者層までに広がり、また商店街プラン実行の担い手も地元の大学、企業、自治会などに広がっていきました。明確なプラン策定と着実なプラン実行が築き上げた地域とのつながりは、石山商店街の継続的な発展を支えてくれるに違いありません。

商店街データ

商店街名：石山商店街振興組合

所在地：大津市粟津町 17-11 鶴屋ビル 1 階（組合事務所）

担当者名：事務局長 神崎 光男

連絡先：077-537-2140